

二月はすぐに立春を迎える事になりますが、寒の厳しさはこれから。

勇氣こそ地の塩なれや梅真白 草田男

梅見はシャッキリ背筋を伸ばさねば様になりません。と恰好つきたいけれど、その根方に落のとう（落の花のつぼみ）を見つけてあら幸せ。すぐにいつものおばさんに戻り、夕食の算段が始まります。

天ぷらが最も簡単ないただき方ですが、甘味噌に刻み込んで落味噌に。ほんの少し汁物に浮かせて吸口にするのもいいですね。

落、特に農家の庭先の細目の物が手に入れば、さっと茹でて水に取り皮をむきます。油揚げをひらいて落を巻き、かんぴょうで結んで煮ふくめば信田巻。3~4cm に切って、すり胡麻・砂糖・醤油のあえ衣で和えて、ごま醤油味。昆布と一緒に煮て炊き合わせの一皿に。私の隠し技はこれに山椒の実を醤油漬けにしておいた物を少し加えて煮ます。おばさんに似ぬ上品で洒脱な一品に仕上がりますよ。

落は野性というよりは山里の廃屋や信仰の為の宿坊跡等によく見られます。そして落のとうをそっと掌に包んでいると、何とつぼみが開いてくるのです。春を待っているのですね。その生命力の強さと愛おしさ。昔からの日本人の早春の喜びの一つに数えられるのもうなずけます。

園内各所に梅がほころび、落のとうも顔を見せ始めています。早朝には冬の野鳥を見つけることも。

暖かくして冬の「到津の森」へいらっしやい。

花 曆 如 月



文：花咲くおばさん

森のなかま・ライオン

ライオンのお気に入り

寒の入りも過ぎすっかり寒くなってきました。人間も肩をすくめています。到津の森公園のライオンの“キング”と“メスジャン”も寒さに参っているようです。しかも北国生まれの“キング”のほうが参ってしまうようです。「君は2歳まで氷点下になる土地で生まれ育ったのではないのか？」と思うのですが寒さに対する心構えもきっと違うのでしょう。

ライオンはアフリカ産の動物とはいえ寒さには結構適応できるのですが、やはり暖かい場所というのはわかるようです。朝パドックに出すとまずは入口付近でおしっこをします。そのあとどうするのか様子を見ているとガラスビューの前の岩に座り込みます。しかも2頭そろって…

実はこの岩ご存知の方も多いかと思いますが、ロックヒーターという暖房装置なのです。特に冷え込む日などは一目散にヒーターに向かっていきます。ネコはこたつで丸くなると言いますが、ライオンは疑岩で丸くなっているのですね。ライオンがもぐりこめるほどの巨大こたつがあればきっとそこから出てこないのでしょうか…。

彼らはロックヒーターの上で目を細めながら春を待ち遠しく思っていることでしょう。

飼育展示係 中ノ園浩司

